

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>「敬愛」という理念のもと、ご利用者の自己決定を尊重し、ご利用者がその地域で自分らしい生活を続けることが可能になるようなサービスの提供を常に意識している。</p>	○	<p>今後は、法人理念とともに、事業所理念についても、ご利用者やご家族等の理解を深めていただくよう取り組んでいく。さらに状況に応じて、ご利用者やご家族とともにより良い理念へと改善していけるような関係形成を心がける。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>苑内スタッフルームや玄関などに理念を掲示しており、職員は常にその理念を意識して業務にあたっている。また、会議や勉強会においても、理念についての確認を繰り返している。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>入所契約時にご利用者とご家族に分かりやすく説明させて頂いており、運営推進会議等においても随時再確認を行っている。また、苑内各所に理念を掲示するなど、理解を得るための取り組みを行っている。</p>	○	<p>今後は、ご家族へ配布する広報誌「生き活きだより」にも理念を掲載するなど、理念の浸透のための取り組みを進めていきたい。</p>
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>苑内に閉じこもるのではなく、散歩や外出行事等を積極的に行っている。散歩中などに会う人々に対しての挨拶やふれあいをきっかけに、苑やご利用者への理解の浸透を図っている。</p>	○	<p>隣近所の皆さんに、より気軽に立ち寄ってもらえるように、事業所の概要や行事などの具体的な取り組みについて、事業所のフェンスに掲示するなどの取り組みを行ってきたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の保育園や小学校等で開催される運動会などのほか、マラソン大会や文化祭といった地域行事にも、ご利用者とともに参加・応援を行い、交流を深めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	<p>評価終了後に予定される会議においては、評価の結果を踏まえ、具体的な改善に取り組むこととしている。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	<p>重要度の高い制度であるので、勉強会などの場において各職員が理解を深め、今後の制度の促進に努めていきたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時においては、その内容に関する説明を徹底している。と同時に、ご利用者本人やご家族の不安・疑問などについても必ずお伺いし、その解消・軽減を図っている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常のケア場面においてお話いただいた内容は、申し送りノートや口頭といった形で、各職員に確実に伝達できる体制を整えている。</p>	<p>○</p> <p>今後は、個別に面談する機会を定期的に設け、ご利用者が話しやすい環境で、意見や不満等を話していただけるような体制作りを行っていく。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご利用者個々人の健康状態や金銭管理などの面で特にお伝えすべき点については、電話等でお伝えしている。また、事業所内で催された行事など、ご利用者の日常的な暮らしぶりについては、広報誌「生き活きだより」への掲載という形で定期的にご報告している。</p>	<p>○</p> <p>職員に関する情報などについても適切な範囲で公開し、ご利用者やご家族との馴染みの関係作りをよりいっそう進められるよう、取り組んでいきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族が面会にお見えになられた際には、ご意見をお伺いするよう心がけているほか、運営推進会議の場においても、ご家族の思いをお話しいただいている。また、施設玄関に、「ご意見箱」を設け、ご利用者のご家族等の率直なご意見を吸収できる仕組みを作っている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営方法など普段からよく話しを行っているほか、必要に応じて個別面談やアンケート等実施し、職員の意見に開かれた運営を行うよう努めている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>誕生会等の行事に関しては、ご家族への連絡(参加依頼)を早めに行い、その希望を尊重した形で日程や職員数等を調整するようにしている。また、職員の希望についても考慮し、可能な限りその意向を反映したシフトを作成している(希望休等)。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>18</p> <p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>運営者は、高齢者にとっての「馴染みの関係」の重要性を十分に理解しており、不必要な異動は行わないよう心がけている。また離職を抑えるための方策として、法人全体でのボウリング大会や日帰り旅行、歓迎会や忘年会等を実施し、職員同士のコミュニケーションを促進している。</p>		
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>19</p> <p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集や、採用にあたって、性別や年齢等を理由に採用対象から排除するようなことは一切ない。個人の特性を活かして、意欲的に働くことができるような環境づくりに配慮している。また、自由な意見がでるように個別での面談を定期的に設ける等にも努めている。</p>		
<p>20</p> <p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>勉強会などの機会においては、「敬愛」の理念が繰り返し確認されており、各職員はご利用者の人権尊重に関して高い意識を共有している。</p>	○	<p>日々の具体的なケア場面において、「真に人権に配慮したケア」とはどのようなものでありうるのか、職員相互でも今後より活発な意見交換を行いたい。</p>
<p>21</p> <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者や職員は、法人外の研修等に頻繁に参加しており、その成果は、法人内の勉強会や会議などの場において、適切に伝達されている。</p>	○	<p>今後は会議や勉強会といった場を、研修参加者の報告だけでなく、その報告をきっかけとして活発な議論を行う場として発展させることが求められる。</p>
<p>22</p> <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>大川市内でのネットワークづくりはないが、久留米や佐賀の川副でのネットワークには参加している。法人内での連携や勉強会等の活動は充実している。</p>	○	<p>今後、大川市内でのネットワーク作りを大川市や事業所と話し合いをし、作っていききたい。</p>
<p>23</p> <p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>定期的に職務を見直し、職員間の負担の公平化を図っている。また、法人全体でのお花見やボウリング大会などを定期的に開催し、交流の場を設けることで、職員のストレス解消・軽減を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	<p>〇向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p> <p>運営者は定期的な面接や普段の会話などを通し、職員それぞれの個性や適性等の把握に努めている。それらを踏まえて担当を割り振ることにより、各職員は、それぞれ意欲を持って職務に当たる事ができている。</p>		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	<p>〇初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p> <p>担当のケアマネジャーとの個人面談は、親密でくつろいだ雰囲気演出された中、ゆっくりとお茶を飲みながら行われる。場合によって、ご利用者本人の抱える不安や不満、ニーズなどをお聞かせいただくまでに、数回の面接が繰り返されることもある。</p>		
26	<p>〇初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p> <p>複数回の面接や、電話での話し合いを繰り返すことで、ご利用者本人のみならず、ご家族の苦労をも十分に視野に入れたケア体制の確立を図るよう心がけている。</p>	○	<p>今後は、行事の後などに定期的に家族会を開き、普段なかなか話づらいような苦労や悩みなどをそれぞれのご利用者のご家族がお互いに話し合い、意見交換ができるような場を提供していきたい。</p>
27	<p>〇初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p> <p>緊急での対応を要する場合などには、当事業所のサービス利用以外の選択肢も視野に入れ、早急に対応を行っている。そのような際に必要な連携が有効に機能するよう、各方面とは良好なパートナーシップを維持している。</p>		
28	<p>〇馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p> <p>各職員は、サービス利用開始以前に、サービスご利用者の性格や生活歴等の基本情報を十分に把握するようにしている。そのことを踏まえたうえで各職員は、ご利用者本人のペースを尊重しながらも、新たな生活に馴染むことが可能となるよう、支援を行っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>〇本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p> <p>各職員は、各ご利用者の適性或性格、可能な活動内容などを踏まえたうえで、それぞれのご利用者が無理のない範囲で出来ることに取り組んでいただいている。活動内容によって、職員よりもご利用者が優れている点も多くあり、各職員はご利用者から「学んでいる」という意識を共有できている。</p>	○	<p>今後も引き続き、ご利用者の中に隠れてしまっている能力を引き出すために、さまざまな働きかけを試みてゆく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>		
31	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>		
32	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	○	<p>今後はアンケートなども実施し、ご利用者やご家族等からの情報収集によりいっそう力を入れて取り組みたい。</p>
33	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	○	<p>今後は、これまであまり接する機会がなかったご利用者同士が交流できる場をセッティングするなどし、新たな関係形成の支援にも(決して無理強いにならない範囲で)取り組んでいきたい。</p>
34	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>		
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>			
<p>1. 一人ひとりの把握</p>			
35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	○	<p>ご利用者本人の意向を適切に汲みとることが非常に困難な場合でも、適切な対応が可能になるよう、検討できる範囲で検討行いたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>ご利用者本人の生活背景、趣味などの情報収集を、ご本人またはご家族等からの聞き取りなどを通して行っている。そこで得られた情報をもとに、それぞれの経験や特技を生かして生活して頂けるような援助を心がけている(料理分担など)。</p>	
37	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>事前に得られた情報からでは分からない部分については、各職員が、日々ご利用者本人と接する中で把握するように努めている。得られた情報は、申し送りノートや会議などの場を通して各職員に共有されることで、日々のケアの改善のために生かされている。</p>	<p>○</p> <p>現在でも必要に応じてご家族との相談を行っているが、今後さらに信頼関係を強化することで、ご利用者に対する理解をより深めていきたい。</p>
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>基本となる情報は、ご利用者本人やご家族等の関係者から得られることがほとんどであり、介護計画の作成にあたっては最重要視している。</p>	
39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月モニタリングを行い、6ヶ月に1回介護計画の見直しを行っている。また、状態変化時には、各関係者との話し合いを経て速やかに計画の見直しが行える体制を有している。</p>	
40	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>サービス利用開始後は、利用開始以前にご家族等の関係者から得られた情報とともに、各職員が日々のケア場面より得られる情報も重要性を持つ。そのような共通認識のもと、各職員は、ご利用者一人ひとりの特徴や変化を時間事に記録し、ケアの実践や介護計画の見直しにつなげている。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>個別の対応が取れるように、ご利用者本人やご家族の意向を組み取り、柔軟に対応できるようにしている。</p>	<p>○</p> <p>ご家族に対して当事業所ができることや、存在意義をアピールしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>定期的に行われる民生委員の訪問の際には、十分な情報交換を行い、協力・連携体制の維持強化に努めている。また、地域の中学校の職場体験等も受け入れており、より直接的な交流を通して、事業所に対する理解を深めていただくよう努めている。</p>	○	<p>今後は地域の社会福祉協議会等と連携を強化し、ボランティアの受け入れを積極的に行う。その様な交流を促進することにより、事業所についての地域住民の理解を深めると同時に、ご利用者にも、地域とのつながりを実感していただく。</p>
43	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>現時点では他のサービスの活用はない。しかし、ご利用者本人やご家族の意向の変化、また要介護度の変化等の理由により、当事業所での継続的サービス提供が困難となった場合に備え、地域における他のサービス事業者やケアマネジャー等とは、適切な連携体制を維持している。</p>		
44	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>現時点では、地域包括支援センターとの協働はあまりない。</p>	○	<p>今後は必要に応じ、困難事例や権利擁護の問題について相談していきたい。</p>
45	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご利用者本人やご家族と十分に話し合い、その希望に沿う形で、受診する医療機関をそれぞれ決定している。</p>		
46	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>認知症に詳しい精神科の医師等との相談体制を確保しており、診断・治療の支援を行っている。</p>		
47	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>事業所勤務の看護師は、ご利用者の心身の健康状態を十分に把握しており、投薬管理を含めた日常的な体調管理のほか、各医療機関との連携の際にも、適切な情報提供等の支援を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p> <p>医療機関の各担当スタッフとは良好な関係を維持しており、有事の際にも適切な情報交換や相談が行える体制を整えている。</p>	○	<p>ご利用者の入院といった事態が生じた場合には、医療関係者のみならず、ご家族等とも十分に連携し、ご利用者本位の適切な支援を行いたい。</p>
49	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p> <p>重度化したご利用者の処遇については、ご家族等やかかりつけ医等との話し合いを十分に行い、各関係者がその後のケアの方針を共有するようにしている。また終末期のあり方についても、ご家族等に事前に十分な説明を行ったうえでご意見を伺っており、ケアの方針を共有できている。</p>	○	<p>終末期のあり方については、ご利用者本人やご家族の考え方を適切に把握するように努め、いざというときに適切な支援が可能になるよう備えておきたい。</p>
50	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p> <p>現時点ではそのように差し迫った状況下におかれたご利用者はいない。しかし、今後の変化に備えて、ご家族のほか、かかりつけ医やMSW、市の担当者等、各機関の関係者との連携体制を整えている。</p>	○	<p>事業所の「できる/できない」を的確に見極めることと同時に、ケアのあり方を工夫することで「できる」ことの範囲を広げていく努力を、今後も続けていきたい。</p>
51	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p> <p>入退所などに伴い居所の変更が余儀なくされる際には、必ず各関係者間で、ご利用者の生活歴や心身の状況などについて話し合い、情報交換を十分に行った上で、ケアの方針を決定している。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
52	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p> <p>居室やトイレ等への入室の際には、必ずノックをし、「失礼します」と声かけを行っている。そのほかのケアの場面においても、各職員は「敬愛」の理念を守り、言葉遣いや態度に十分に気を使っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	○	<p>今後も引き続きニーズの聞き取りに力を入れるとともに、得られた情報は、適切に具体化できるよう取り組んでいく。</p>
54	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
56	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	<p>ご利用者それぞれの苦手な料理や食材などについても、調理法や味付け、見た目等を工夫することで、少しでも食べやすくしていきたい。</p>
57	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
58	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p> <p>入浴については、各ご利用者の希望を可能な限り尊重し、毎日入られる方や1日置きに入られる方など、それぞれのリズムに合わせた支援を行っている。順番についての希望にも、可能な限り対応するようにしている。</p>		
60	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p> <p>日中の活動の基本的な流れを(各ご利用者ごとに)ある程度固定することで、一日の生活リズムを形成し、夜間良眠していただけるよう支援している。昼食後など、ご利用者の希望に応じ、ホール畳や居室などで休息を取れるよう支援している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p> <p>洗濯物たたみやおしぼり作り、食器拭き、芋の皮むき、畑仕事や花の水遣り、買い物の手伝い、レクの進行係など、生活場面における多様な役割を、ご利用者それぞれの力を活かし、意欲を汲み取ることができるようなかたちで分担している。</p>	○	<p>これまであまり参加しようとしなかったご利用者についても、生活歴等をもとに検討しなおし、家族等とも連携して、それぞれの役割や楽しみを見つけていただけるよう支援していきたい。</p>
62	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p> <p>各ご利用者の能力による部分は大きいですが、自己管理が可能な方については、持参の財布を自己にて管理していただいている。また、そのほかのご利用者についても、外出時等には、本人の希望のものを可能な範囲で購入できるように、支援を行っている。</p>		
63	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p> <p>施設周辺などに気軽に外出できるよう、安全面に配慮した環境整備を行っている。また、施設周辺に花を植えたり、事業所の敷地内にある畑では季節に応じた作物を育てたりと、ご利用者が戸外に出かけようとする意欲を助長するよう工夫している。</p>	○	<p>今後も引き続き、ご利用者それぞれのニーズに沿った外出支援を計画する。と同時に、不穏時などに気分転換のための外出ができるよう、より柔軟に対応可能な保安体制の確立を図りたい。</p>
64	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p> <p>そのような外出の希望を明確にされるご利用者は少ないが、希望がある利用者については、ご家族などとも連携しながら対応している。</p>	○	<p>希望を表明しようとしないう、あるいはそうすることが困難なご利用者についても、生活歴やご家族からの聞き取りなどをもとに、ニーズを汲み取れるよう試みたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話などの利用は可能であり、ご利用者の希望とご家族のご都合のいずれにも配慮し、可能な範囲でご利用いただくよう支援している。手紙のやりとりについては、ご利用者によって希望があれば支援するようにしている。お孫さんに手紙を出し、そのご返事をいただいた際には非常に喜ばれていた。	○	電話がより気軽に利用できるよう説明を十分に行うとともに、掲示や設置位置なども再検討する。手紙のやり取りについても、今後ご利用者の希望や力に応じた(書く・出すなどの)支援体制を整え、ご家族等と連携しつつ、その機会を増やしたいと考えている(季節ごとに企画するなど)。
66 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族やご友人等の訪問時には、必ずお茶をお出しして、居心地よく過ごせるよう工夫している。また、誕生会などの行事にはご家族を招待し、レクの見学(場合によっては参加)のほか、昼食も一緒にとり頂けるような体制となっている。		
(4)安心と安全を支える支援			
67 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の問題性については、全職員が正しい認識を持っている。生活場面においてそのような禁止行為が行われない為に、各職員は、日常的な言動のあり方などについても十分に注意を払っており、不適切とも受けとられる言動については、相互に指摘しあえる関係が形成されている。		
68 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室出入口には鍵を設置しておらず、玄関等の鍵も日中はかけていない。外へ出られようとする方には、付き添いを行っている。ベランダ出入口については、スタッフ休憩時間等で保安人員が不足する際にのみ施錠を行うようにしている。	○	ベランダ出入口についても、施錠時間をより短くできるよう保安体制等の見直し・工夫を行いたい。
69 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間ホール以外の場所で過ごされるご利用者については、職員が頻繁に所在確認し、必要に応じて声掛け等を行っている。夜間帯については、夜勤者が各居室を定期的に巡回し、ご利用者の安全確認・状態把握に努めている。		
70 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ハサミなどの刃物類やお薬などについては、保管のマニュアル、チェック表を作成し、適切に管理を行っている。自己管理可能な方については、適切な範囲で、それぞれ居室にお持ち頂いている。	○	ご利用者の状態に応じ、危険が大きいと判断すれば、こちらで管理する必要も出てくると考えられる。そのようなタイミングの適切な見極めと、自尊心を傷つけない声掛けについて、職員同士で事前に十分話し合い、方針を共有しておきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	<p>今後、事故検討委員会を発足し、再発防止のための取り組みを、具体的かつ速やかに検討できる場を設けたい。</p>
72	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
73	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		
74	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
76	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	○	<p>ご利用者の状態変化に応じた服薬内容の変更に際しては、全職員の情報共有が不可欠となる。申し送りノート、口頭伝達、会議等での確認など、二重三重の確認体制を確立したい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
78	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	○	<p>今後も引き続き、適切な口腔ケアを実施していく。さらに、歯科医との連携も図ることにより、清潔保持の為のより適切な支援を心がけたい。</p>
79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	○	<p>今後は、より自由かつ安全に水分補給を行っていただけるよう、ウォータークーラー等の設置なども含めて検討行いたい。</p>
80	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		
81	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
82	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>		<p>玄関先や建物周辺は、常に色鮮やかな花で飾られており、親しみやすさを演出している。また、お正月には門松を飾るなど、季節感を大切に空間形成を心がけている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>		
85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	○	<p>今後、ご家族との連携をさらに強化することで、ご利用者の状態を考慮しつつも、その希望に最大限配慮した、より快適な居住空間の演出を図ってゆきたい。</p>
86	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	○	<p>今後さらに、主治医や作業療法士等との連携を深め、ご利用者それぞれの状態に合わせてたりハビリ支援等にも力を入れたい。</p>
88	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
89	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ①環境 施設付近はのどかな田園風景が広がっており、田畑の移り変わりとともに四季の変化が実感できる。木造平屋建ての明るく清潔な建物は、そのような立地条件に調和しており、窓からは大川市のシンボルとも言える大川昇開橋が眺められる。
- ②食事 こすもす苑菜園を活かし、収穫した野菜など季節感のある食材を取り入れている。ご利用者の方は買い物に同行され、調理も一緒に行っている。職員はご利用者の方より調理法を教えることもあり、心のこもった食事の提供を心がけている。
- ③入浴 ご利用者の希望により、入浴は毎日可能となっている。時間帯は基本的に午後からとなっているが、夜間帯でも入浴可能である。隣接する同法人に温泉が出ており、好きな時に温泉での入浴可能となっている。
- ④行事 外出行事はご利用者の皆様に好評であり、楽しみにされているため、毎月2回は外出行事を行っている。行き先は観光名所やご利用者の希望を取り入れている。夏祭り、敬老会、運動会など同法人との協働により施設内だけの交流にとらわれないようにしている。その他、毎月1回職員のアイデアを持ち寄ったお楽しみ会を実施している。
- ⑤地域交流 地域の保育園や小学校等で開催される運動会などのほか、マラソン大会や文化祭といった地域行事にも、ご利用者とともに参加応援を行い交流を深めている。また、ボランティアの受け入れを積極的に行い、地域交流の場を得ている。
- ⑥その他 個別ケアとしてその方の状態や趣味活動を活かす場を提供している。作業療法士による物理療法やマシンを使用したリハビリを行っている。苑内では犬猫や金魚などの生き物とふれあう機会を得ている。